

**問** 濱田高知県知事は、これからの高知県政を運営するにあたり、住民の生の声を聞きながら、それを県政に反映していくとの考えである。中平市長の地区懇談会に対する考えを問う。

**答** 地区懇談会は、地域の皆さんのご意見を聞くための大事な手法の一つである。地域で行われている様々な行事に参加した際等において多くの市民との対話を通じてご意見を聞かせていただき市政運営に生かしていきたい。



高倉 真弓 議員

## 危機管理上から考えるワクチン接種優先順位について

**問** 保育士、教職員に対する優先接種について問う。

**答** 保育士や教職員を優先接種の対象とした理由は、各地の保育園や小中学校のクラスター発生の報告を受け、ワクチン接

種の対象外となっている子供たちの感染リスクを減らすことや、保育、教育現場の閉所は容易でないことから、保育士、教職員も優先接種の対象とした。

**問** 介護職にある従事者の優先接種について問う。

**答** 高齢者施設等の従事者については、入所する高齢者の接種と同時に、市内十七施設の三百十一名に対し、五月中に二回の接種が終了している。居宅介護サービス事業所等の従事者については、住民接種全体の接種計画に影響が出ない範囲で日程の確保、接種を行う。

**問** 市役所窓口業務や接種会場担当者等は年齢に関係なく優先すべきと思うが、行政職員の優先接種について問う。

**答** ワクチン接種業務に従事する者は、医療従事者としての位置づけで、急なキャンセルなどに対応するため余剰対策として接種を行うもので、職員全てを優先して接種するものではない。まずは弱い立場の方々から、しっかりと打っていただく対応をしている。

## 学生支援について

**問** コロナウイルス感染症の関係で多くの学生さんが困難を抱えていると聞く。何か支援はあるのか問う。

**答** 学生応援宿毛ふるさと便事業を提案させていただいている。これは本市産の新米と特産品などを詰め合わせた食料の他、就職活動関連情報等を送付するものである。対象者は宿毛市出身で、申請の時点で十八歳から二十九歳までの市外在住の大学生、高等専門学校生、専修学校生で申込期間は八月から九月末までを想定している。市のホームページ、広報、LINE、フェイスブック、防災アプリ等を活用し保護者を中心に周知して本人もしくは保護者から申し込みをいただく様にしたい。

## スタートアグリカルチャーすくもについて

**問** 苺市場の現状と品種選定、冷蔵施設の稼働状況を問う。

**答** 市内で多くの方々栽培し農協の推奨品種である「さがほのか」を栽培品種として選定

一定の基準に合う一部の苺をだるま夕日にちなみ「だるま苺」としてブランド化し、主に出荷をしている大阪中央青果でも高い評価をいただいている。冷蔵施設は一坪程度の小規模なプレハブ冷蔵庫で、収穫から出荷までの苺を冷蔵する目的であることから、収穫の時期は毎日稼働している。



山戸 寛 議員

## 宿毛市小規模林業総合支援事業補助金について

**問** それぞれの支援項目に対する補助金の額について問う。

**答** 間伐は一ヘクタールあたり十五万三千円、作業道開設は新設で一メートルあたり二千元、補修の際には経費の五十%以内、林業機械レンタルでは経費の三分の二、林業アドバイザーの活用は一日あたり三万円以内、林業機械購入は上限を五十万円とし経費の二分の一以内を補助

する。

**問** この事業の対象者は市内の山林において持続可能な森林経営を行う者となっている。持続可能な森林経営とはどのようなものか問う。

**答** 自らが路網を整備し、二十%くらいの間伐を十年程度の間隔で繰り返すことにより、大規模な再造林をすることなく、適正な森林管理を行いながら生長部分を収穫する小規模林家においても実現可能な林業であると考え。

**問** 支援対象者がすくも森林塾卒業生の会の会員に限定されている理由について問う。

**答** 伐採届等で確認できる内容からは、自伐型で施業する卒業生以外の法人は少数であると思われる。新たな林業スタイルの一つである自伐型林業の手法を取り入れた小規模林業を自ら実践していくためには、自伐型林業における林業経営の形について学習することが必要であると考え、ことから支援対象をすくも森林塾の卒業生としている。なお森林塾については今年度も継続して実施する計画であり、多くの方に受講して実践してい